

吉澤はに丸ホームステイ日記

その1

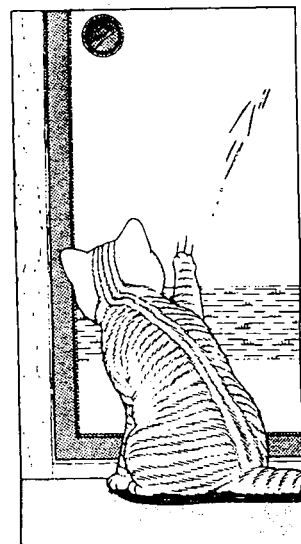
私の名前は、「はに丸」といいます。7年前、大町市常盤という所で生まれましたが、捨てネコになる寸前に、現在御世話になっている吉澤家の、当時高校生だった千景さんに拾われて来ました。沢山の子供を生みましたが、そのうちの1匹、「ヒロコ」と親子仲良く暮らしています。

さてさて、自分の紹介はこれくらいにして、今年の夏、昨年に引き続きアメリカの人達が我が家に泊まって行く、と言う機会がありました。私の住んでいる美麻村と、姉妹村提携を結んでいるアメリカのメンドシーノの皆さんが大勢で美麻を訪れてくれたのです。いつも見慣れている顔とは違った人達が来たので、私もヒロコも戸惑ってしまいました。ほかほかランド美麻に泊まって、美麻の小学生や中学生との交流、善光寺、白馬ジャンプ台、信州博覧会、松本城400年祭りなどの見学をしました。この滞在中にホームステイが行われました。ホームステイとは、自分の家にお客様を呼んで、あれこれ御世話する事の様ですが、今回は6人が我が家を訪れました。

最初のお客はデビッド／ベティ、グロスご夫妻でした。7月10日、我が家の一応の主人義夫と妻の尚江、賑やかで私の好きな千景、そして尚江のいとこの美恵さんが朝から高瀬ダム、日向山フラワーガーデン、仁科神明宮などを案内しました。

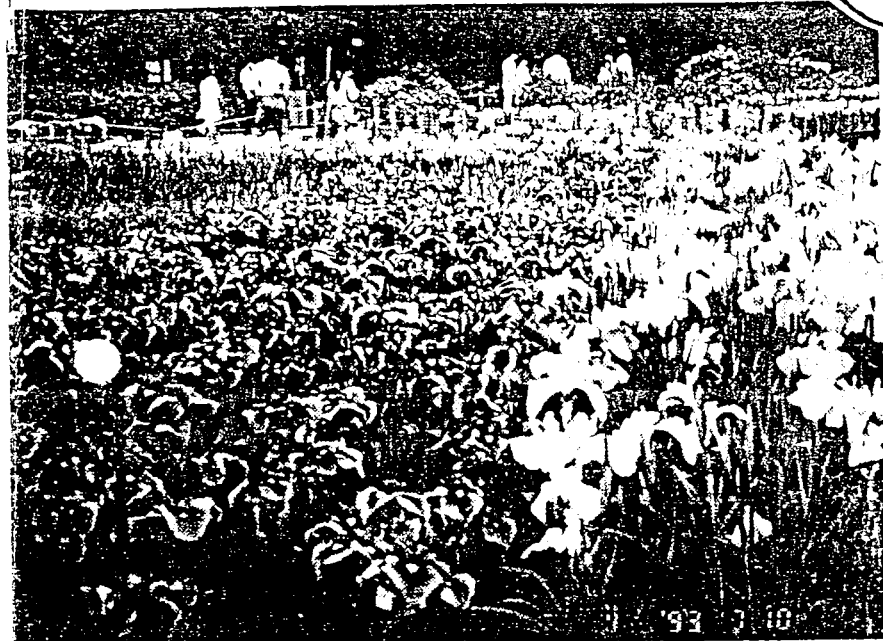
高瀬ダム見学では、まずテブコ館でダム建設の映画を見てから、マイクロバスでダムに向かいました。このドライバーがたまたま隣の家の洋之さん。また、バスの乗客は私達6人の他4人の計10名と小人数で、楽しい見学となりました。前日の雨で眺望はどんなものか心配でしたが、霧の間から野口五郎岳を望む事が出来、湖面の上に白く棚引く帯状の霧が神秘的な雰囲気演出し、グロス夫妻はベリーナイスを連発、この美しさは表現しがたいと喜んでくれました。大きな石を無数に積み上げた巨大なダムをバックに、記念撮影もしました。

ダムの下では、黄色い草花に青く小さな蝶がいくつも舞っており、デビッドさんは一生懸命カメラに取っていました。ダムを後にして、今度は地下発電所へ。トンネルの入り口は格子のゲートがあるのですが、バスの中からリモコン操作で開けます。トンネルに入ると下り坂で、しばらく降りると冷気に包まれた霧の中。夏のメンドシーノの霧のようだ、と言うと、デビッドさんも同感だ、と言います。地下発電所では、色々説明を受けましたが日本語のためデビッドさん、ベティさんには分かりにくかったようです。



が、それでも概要は何とか掴めたようでした。再び地上に戻り、入り口ゲートから100メートルほどの所に桜が沢山あったのですが、この風景をカメラに収めたい、とデビッドさんはバスを止めてもらい、カメラを片手に飛び出して行きました。15分ほどで出発点のテブコ館に戻り、そこでガイドとドライバーを含め、全員で記念撮影。お礼を言ってマイカーの人となりました。

日向山フラワーガーデン
▼ Hinatayama flower garden



こんにちは
わたしは
吉澤はに丸
です。
ちょっと似ているけど
Michael ではありません

My name is
Hanimaru
Yoshizawa

My master is
yoshio Yoshizawa
I wrote this
composition.

時刻は正午に近づいていたので、昼食を予定していた大町温泉郷、ホテルおき野へ向かいました。おき野では、カナダに留学しているという女将のめいがか手伝いに来ていたお蔭で、昼食のひとつ、通訳として活躍してもらい、大助かりでした。メニューの説明で日本料理についての理解を深めてもらい、また誰もいない大浴場で一汗を流してもらう事が出来ました。

おき野を後に、日向山フラワーガーデンへ。沢山の人が菖蒲の花を見物に来ていました。色とりどりに様々な花が咲き、とても素晴らしい菖蒲園でした。遊歩道を廻って行くと小さな庭園がありました。岩を積み上げ、滝をイメージさせてあるこの庭園を見て、デビッドさんはメンドシーノへ帰ったら、自分の庭にこういった日本庭園を作ります、と言っていました。この人は日本文化に強い関心があって、自分でも生活の中に日本の習慣を取り入れていると聞いています。一通り見物した後、デビッドさんの希望で売店にフィルムを買いに行きましたが、暫くの会話の後、希望のフィルムが無いらしい事が分かりました。ASA 400の36枚撮りの物が欲しかったのですが、これが無いという事で、別の場所でする事にして、外に出た所で今度は野田医師の奥さんと会いました。野田医師がテニスの練習に来たので、それに付いて来た、とのことでした。しばらく話し込んでみると、野田医師も汗を拭きながらやって来て、話をしている間にデビッドさんは近くで小さな鉢植えの花を買って来ました。

野田夫妻と別れて大町市宮本にある仁科神明宮へ参拝に行きました。まずお手洗水で清めの水を使います。尚江が最初に、それを見てデビッド、ベティが続きます。宗教が違えば儀礼の方法も変わります。多分、デビッド、ベティも初めての体験になったのでは？大木の杉に囲まれた参道を進み乍ら、森木の様子、鳥居、本殿の造り、一つ一つを丁寧にカメラに収めていました。

次回につづく [To be continued]

Cooking



1 Scrape off ginger skin with a spoon or knife.



This is a quick dish to prepare — just saute seasoned, thinly sliced pork. This dish, which is relatively inexpensive and yet rich in taste, is very popular in every home.



2 Use a fine grater and grate quickly.

- Ingredients (for 4 persons)
 3/4 pound (340g) pork (shoulder butt) thinly sliced
- Dipping sauce
 3 tablespoons soy sauce
 2 tablespoons sake
 2 teaspoons grated fresh ginger (pictures 1 & 2)
- 2 tablespoons vegetable oil

- ① Combine dipping sauce ingredients.
- ② Cut pork into 2-inch (5 cm) pieces and steep in sauce for 10 minutes. Do not oversteep or the pork will become tough.
- ③ Heat vegetable oil in skillet and saute pork (spreading out the slices) over high heat till slightly brown; then turn and saute at medium heat. Add remaining sauce, and cook for 1-2 minutes.

Note: It is often served with sauteed green peppers or with fresh lettuce and tomato. The relish illustrated in the photograph is small green peppers sauteed with salt and pepper.

メンドシーノのオーガニックフードショップの店頭にて。みそも扱っているそうです。photo・吉田比登志



このページの記事は右

に紹介した本から抜粋したものです。ごはんの炊き方だしの取り方からなべ物・揚げ物・すし・焼き物など代表的な日本の家庭料理61品が英語で紹介されています。

ベターホーム協会発行

2369円





山品の
手打そばは
いかがでした
でしょうか

▲ At Mr. Takeori's house. Mr. Takeori keeps a "SOBA=buck wheat noodle" restaurant. That restaurant's name is "YAMASINA"
YAMASINA's soba is noted for its good taste, so many people come from afar to eat it.



▼ written by Fusako Takeori

るは、うわさしています	た。ほにかみながらの笑顔、今でも思ひ出	んととでも可愛い娘さんのアニさんでレ	家には、とて美人のお母さんのマーシーさ	話していろいろ様々、おごやかで、私の	いた、夕食の時など、しんせきの人達と	始め、日本の生活をしっかりと勉強して来	バ、くりに、事は、白みの上には座る事を	不母もありました、来た、いた、	この料理は、食べてもらえるか？、と	尻口入ったもらえるか？、又	おい、おい、巨が、前は色々、この様な事は、	交流が出来た事、とても嬉しく思っています	ー、思、かけなく、メント、ノの人達との	そ、そ、紅葉を始める季節、ア、ア、ア、	あ、あ、あ、夏も、つし、か、野山は	メント、ノ、の、皆、さん、が、い、ら、し、た、	今年、は、例、年、に、な、い、涼、し、い、夏、で、レ、た、け、れ、ど、	夏の思い出
房子	竹折正利																	

我が家は、いつもナマオケハウス

written by yuichi Yoshida

吉田裕一

このところ音楽に没頭している。客がくれば楽器を持ち出して70年代の懐かしのフォーク・ニューミュージックをジャンジャカジャンジャカとひきまくっている。そんなわが家はカラオケボックスならぬナマオケハウスといったところか。

ホームステイのときもそういういつものペースであった。うちに泊まったマーシーさんアンちゃん母子は、その前日のMr. Takeoriさんのところと違って、この家族はなんてnoisyでcrazyなんだと内心ではあきれて帰ったかもしれない。



「外国に行ったときまずあいさつの言葉をその国の言葉で覚えるのは基本。そのうえでその国の歌をひとつでもいいから覚えて歌えば間違いなく友達になれます。」むかしフォークシンガーの高石ともやさんがいていた。僕は自慢じゃないが、パスポートをつくったことがない。でも海外に行く事があったらこれは是非実践したいと思っている。

夕食もそこそこに、近所の中村浩さんの一家もまじえて歌がはじまった。用意しておいたのは、「赤とんぼ」「海」そして時節柄「たなばたさま」の童謡3曲。楽譜にひらがなとローマ字の歌詞をそえたものを一人に一部作っておいた。そして僕と中村さんのギターと里ちゃん（結婚して7年にもなるのにいまだにこういう呼び方だ。じいさんばあさんになってもこのままなのだろうか）のピアノそして子供たちの声をまじえての大合唱である。マーシーさんは一緒にうたおうとかなり努力してくれたけどアンちゃんはどうだったかな？なにせ美麻滞在中は連日のハードスケジュールで、この日も善光寺さん参り、かなりお疲れのご様子でした。もっとゆっくり出来ればよかったのにね。



くるま座の集まりでは（じつはまだ2回しか集まっていないが）最後に必ずアメリカの歌をうたうことにしている。といっても、最近のヒットナンバーではなく（はっきりいってあまり知らない）いわゆるフォークソング中心だ。P・P・M、ビートルズ、ジョン・デンバー、ブラザーズ・フォー、そしてビートルズ（イギリスだけど）あたりの曲をあつかっていきたいと思っている。アメリカではラジオでこの手のナツメロ（オールデイズという）を朝から晩までかける局があって、子供達もこれらのナツメロをわりとよく知っているようだ。

日本だと、演歌世代とニューミュージック世代が別れてしまっていてなかなかいっしょにうたえる歌がないのが寂しい。

美麻とメンドシーノの両方のひとが共通に知っている歌ができればいいのにと思う。アメリカのフォークソングで「This land is your land」というのがあって、ほとんど『国歌』なみに皆知っていてなおかつノリがいいという曲があるのだが日本のばあい「君が代」じゃ乗れないなあ・・・ なにかいい歌ありませんか？

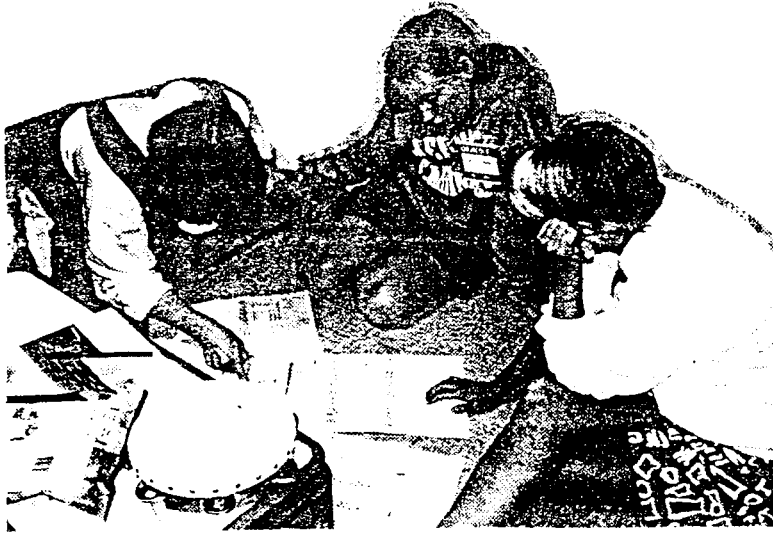
Y.Y

右へつづく



前のページからのつづき

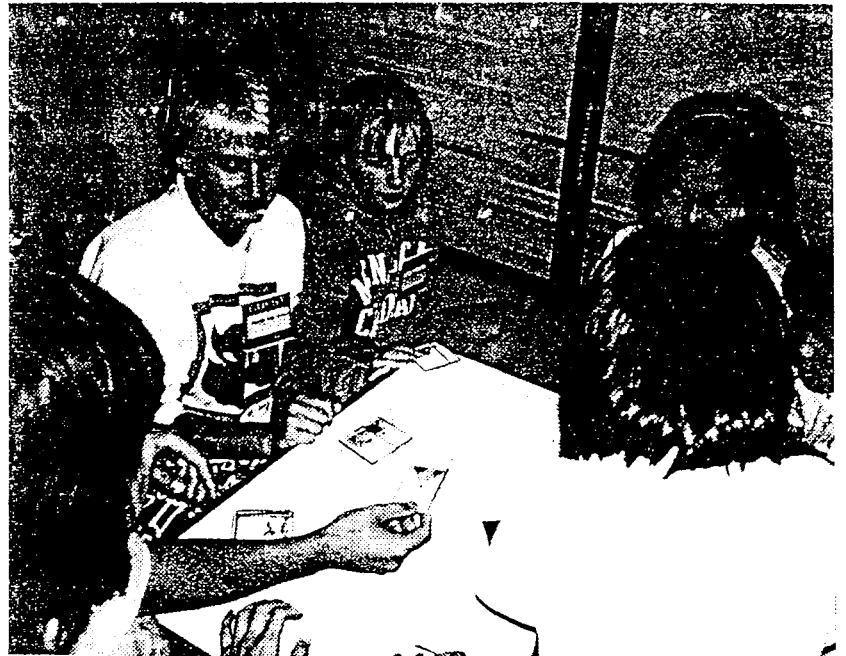
▽歌詞カードを前にして、「ええと…この詩の意味は…」



何回か歌ったところでマーシーさんから歌詞を説明してくれというリクエスト。当然聞かれるとはおもっていたけれど、やはり詩の翻訳はむつかしい。「ゆうやけこやけのあかとんぼ 抱われてみたのはいつの日か」この一行をあなたならどう説明しますか？日本語の文章（とくに歌詞）は主語が完全に省略されていることが多いので、日本語を学ぼうとする外国の人は苦勞するだろうなあとおもうのです。僕なんか「負われて見た」の説明のために子供をおんぶしちゃいました。

「海」は比較的簡単だったけど「たなばたさま」に至っては、七夕飾りの現物を見せる以外に手が無い。ちょうど七夕飾りがあったので（だからこの歌を選んでおいたのだが）その下に連れて行き「これが五色のタンザクである。日本人の子供はこれに願い事を書いて星に祈るのだ。」と説明すれば、「ドウイウネガイゴトデスカ」という質問。短冊をみると「おもちゃがもらえますように たいき」と書いてあった・・・

次回メンドシーノのみとたちを迎えるときには是非小さな音楽会でもできればなあ、と思う。子供どうしの交流だけでなく、大人どうしの交流もできればいいな。そのときに歌・音楽はとても良い手段になるとおもうのです。皆さん！もっと音楽をやりましょう！！



↑ 百人一首ではなく
‘坊主めくり’なのだ

↑ They are playing
“Bōzu-Mekuri”
card game



原稿募集

美麻とメンドシーノの交流についてあらゆる角度・視点からの原稿を募集します。具体的な思いで・今後への意見・メンドシーノの人達に紹介したい美麻の良いところ（悪いところも隠さずに）・写真・イラストなど何でもありです。特にメンドシーノの人達と文通などされているかたは、向こうからも投稿してもらえるよう個人的に呼びかけていただきたい。将来的には日本語・英語が半々に入り交じった紙面にしたいと思います。英語で美麻のことを紹介できればいいのですが、だれかチャレンジしませんか？

原稿は吉田裕一（千見）・宮沢雄一（青具）またはお近くのスタッフまでおよせください。

創刊号について

今号はどうしても11月の文化祭に間に合わせたいという思いから編集レイアウトなどは吉田が独断専行して作りました。ここに一言ことわっておきます。次号からは、発行時期にこだわらず、十分な話し合いをへて、皆でつくっていく形にしたいと思っています。

次号について

ホームステイ受け入れ家庭の皆さんにこの夏の思いでをまとめていただくよう依頼しましたが、紙数と編集に要する時間の都合で今回かなりの原稿を積み残してしまいました。次号をご期待願いたい。

このミニコミ紙の財政について

美麻村からのサポートにより、役場のコピー機を使用させていただくことになりました。したがって、村民の皆さんにお配りするのが本来ですが、各戸配布というかたちにはしませんので、定期的に読みたいかたは、吉田またはスタッフまでお申し出ください。

また、版下成作の段階で台紙や原稿のコピー・写真のやきつけ・発行物のメンドシーノへの送付など一号につき数千円かかります。この分については、有志のカンパという形でやりたいとおもいます。是非ご協力ねがいたい。数万円あれば当分安泰なので、その程度を目標に募集します。よろしく。

くるま座創刊号 編集人・吉田裕一（☎0261-29-2716

Managing editor・Yuichi Yoshida

くるま座・創刊号スタッフ（STAFF）

宮沢遊一（Yuichi Miyazawa）宮沢富貴子（Fukiko Miyazawa）

大日向敬子（Keiko Obinata）野田雅子（Masako Noda）

佐藤京子（Kyouko Satou）吉田裕一（Yuichi Yoshida）

吉田里津子（Ritsuko Yoshida）吉沢義夫（Yoshio Yoshizawa）

編集後記

この夏ポカポカランドで、メンドシーノの人達を見送ったあとホッとしたと同時に、美麻の村民が自主的に盛り上がっているのをほとんど初めて見たなあ、と思った。そしてこの雰囲気は大事に育てて行きたいなあと思った。それから早3カ月。あの1週間が幻であったがごとく、いつもの日々に埋没しようとしている。僕もそしてみんなも。

しかしそれぞれの人の気持ちのなかに、大切なものを大切にしていきたいという思いはしっかり根付いているだろうと僕は確信したい。

このミニコミ紙は美麻とメンドシーノの交流がもっと親密になっていくことを願って発行した。「くるま座」はこの夏のホームステイの受け入れ家族のなかの有志数人でスタートしたグループだが、まだグループとも言えないような小さな集まりである。

普通サークルといえば、会長がいて副会長がいて、規約があって・・・というありようが普通だろうが、そういう在り方がどうにも苦手なのでその種の「かたちづくり」にはこだわらないことにした。これが「くるま座」の名前の由来だ。

このミニコミ紙も勢いがあるうちは続けて発行するが、息切れして来たりマンネリ化してきたら即座に休刊ないし廃刊することをここに宣言して創刊の辞としたい。

好きで作っているのだ。ねぎらいの言葉は要らない。あなたの声と意見（原稿）がほしい。

吉田裕一

原稿募集

美麻とメンドシーノの交流についてのあなたの声・意見を本誌におよせください。この小冊子はメンドシーノの人達との交流の輪をもっと広げていくために創刊しました。ですから、この小冊子の対象読者は美麻・メンドシーノ両方の人です。かれらとの交流のなかで言葉の壁は何としても乗り越えなければなりません。したがって日本語・英語の両方がいりまじった紙面になるとおもいます。英語は避けて通れないのです。一人でも多くの人にこの小冊子の製作にかかわっていただきたい。そして英語アレルギーを克服していただきたい。

創刊号では、今年の夏のホームステイの受け入れをした家庭の方々の体験談・思いでを中心に編集しましたが、学校・行政・地区などさまざまな立場からメンドシーノとの交流の機会を持つことがあったと思います。皆さんの体験、そして今後の交流に向けての自由な意見をこの小冊子を舞台にして紹介して行きたいと思います。

今回来村したメンドシーノの人たちにも同様の内容の原稿募集をいたしました。彼らは我々美麻の人間より積極的です。ひょっとしたら日本語の原稿より英語の原稿のほうが多くなるのではないかと、などと冗談まじりにおもっておりますが、彼らにまけないように是非自発的・積極的に投稿してください。

メンドシーノとの交流はご存じのように美麻村の村政の一環として、小学生の訪問や今回のような訪問団の受け入れが行われています。これらの交流をより有意義なものにするために、そしてなによりも私たち自身が彼らとの交流を楽しむためには、この小冊子のような日常的な活動を続けることが大切なのではないかと思うのです。

くりかえし呼びかけます。

あなたの声・意見をお寄せください。

特に次のような内容を期待します。

- ★ この夏彼らと交流した中で、楽しいと思ったこと。感動したこと。失敗談。
 - ☆ これからの交流ではこういうことがしたい、こういうことをして彼らと遊びたい、学びたいという意見。
 - ★ メンドシーノのひとたちに見せたい・知ってもらいたいとおもうような美麻のよいところ（行事・暮らし・自然など）の紹介。（この点については、彼らの日本語学習の教材になるように、編集して行きたいと思いますので、やさしい日本語で書いてください。）
 - ☆ メンドシーノのひとたちに味わってもらいたい、わが家の自慢料理・郷土料理
 - ★ これまでにメンドシーノのひとたちと文通をしている人の体験談。文通のなかで考えたことなど
 - ☆ 美麻・メンドシーノの交流の参考になるような本の紹介。
 - ★ 写真・イラスト
- などなど・・・

もちろん原稿は日本語で結構です。
ですが、英語で原稿の書ける方はぜひ書いてほしい。簡単な文でもかまいません。多少の間違いがあってもかまいません。ぜひチャレンジしてください。
彼らは美麻の人間が書いた英文の記事を一番期待していると思います。

原稿はなるべくそのまま内容については手を加えずに掲載しますので、ていねいに書いていただくか、ワープロが使える方はワープロで書いてください。

原稿は次の経路で編集部へ

- ☎ 直接編集部へ郵送もしくは持参
- ☎ 美麻小中学校に通学中の方またはお子さんをお持ちの家庭は赤羽先生にお渡しください。
- ☎ 役場関係の方は商工会の大日向敬子さんまでお渡しください。
- ☎ 宮沢雄一さん（郵便局）経由で編集部へ

くるま座は次の経路で配りたいと思います。配布にご協力ください。

- ☐ 美麻小中学校の保護者全部の家庭
- ☐ 美麻村役場職員の全家庭
- ☐ メンドシーノ交流委員会（この夏の）の全家庭およびホームステイ受け入れの全家庭
- ☐ 全区長・議員・教育委員
- ☐ このほか読みたい方全員にお配りします。上の分類から漏れているかたは吉田までお申し付けください。

資金のカンパをお願いします。

「くるま座」は一回の製作・出版・メンドシーノへの郵送に4000円～5000円かかります。この分はカンパで集めたいとおもいます。50000円あれば10回はだせますので、3年くらい大丈夫です。集まらなければ自腹を切っても発行する積もりですが、この小冊子を応援して下さる方は、一人いくらでもいいから寄付願いたい。一件いくらとは決めるのは「寄付」の本来の

趣旨から外れるとおもいますので、10円でも100円でも1000円でもウン万円でも結構です、ご自分で好きな額だけ寄付をお願いします。もちろん「金を払う価値なし」と判断された方はただ読みでも結構！

吉田裕一までご連絡下さるかどこかで行き会ったときにお渡しください。

会計報告は次号以後の誌上で致します。

スタッフ募集

月に一回位、あつまって編集会議というか、情報交換の場を持ちたいとおもいます。参加したいかたは、吉田まで連絡ください。